

2歳6か月児健康診査を受けられる方へ



ささやき声検査

2歳6か月児健康診査では、中等度難聴の早期発見のために、
おうちでの「ささやき声検査」の実施をお願いしています。

ささやき声検査とは

保護者の方が「絵シート」の絵の名前を小さな声でささやき、お子さんに絵を指さしてもらうことで、聞こえているかどうかを確認する検査です。中等度難聴を発見するために、おうちでもできる検査です。

中等度難聴とは

中等度難聴の聴力は40dB～70dB（正常な聴力は25dB以下：数字が大きいほど大きな音でないと聞こえない）で、音は聞こえるけれど聞き取れない（正しいことばとして認識できない）状態の難聴です。重度の難聴は生後早期に発見されますが、中等度の難聴では、音に対する反応があったり、簡単な会話ができたり、場合によっては発音も比較的明瞭なこともあるため、発見が遅れることがあります。

早期発見の大切さ

聞こえは、ことばを獲得していくうえで、とても大切な役割をしています。中等度難聴があると、聞き取ることができない音があり、正確なことばの情報が入ってこないため、ことばの発達が遅れていきます。また、難聴の発見が遅れると、補聴器を使っても、ことばの発達の遅れは改善されにくく、入園・入学後の様々な学習面に影響を及ぼす場合があります。

ただし、3歳6か月までに発見された場合は、補聴器の使用などで、ことばの正しい理解や明瞭な発音の獲得を促すことができ、ことばの発達が追いつく場合が多いとされています。

そのため、彦根市では、中等度難聴の早期発見のため、2歳6か月児健康診査を受けられるお子さまを対象に、「ささやき声検査」の実施をお願いしています。

検査の方法

次ページに検査方法が載っています。よく読んで実施してください。

2歳6か月児健康診査を受けられる方は、おうちで
「ささやき声検査」を実施してきてください。
(問診票に検査結果の記入欄があります。)

< ささやき声検査の方法 >

★「ささやき声」の出し方 ★

1. まず、のどぼとけの所に手を当てて「あー」と声を出してみてください。手に振動が伝わりますね？
2. 次は、ないしょ話をするときの声で「あー」と声を出してみてください。振動が伝わりませんね！このないしょ話をするときの声で検査してください。

声の大きさがポイントです。必ず、テレビや音楽は消して、静かな場所で行ってください。

1. 絵を子どもの方に向けて置き、1 mくらい離れ、向かい合って座ります。
2. 「この絵の名前を言うから、お母（父）さんが言った絵を指さしてね。」と子どもに言って、普通の声（会話するときの声）で、絵シートの表示した絵の名前を言い、子どもが6個の絵をすべて正しく指させるようにします。

※ 絵シートに書いてあることばで言います。「いぬ」を「わんわん」と言ったり、「ぞう」を「ぞうさん」と言ったりしません。

3. 「今度は小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて、指さしてね。」と子どもに言って、口元を手などで隠し、6個の絵の名前を、ささやき声で1回ずつ言います。

※ 絵の名前を言うのは、1回だけとします。聞き返されても、繰り返し言わないようにします。また、ささやき声が大きくなるように気をつけてください。

絵シート

